富山高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	実験実習Ⅱ		
科目基礎情報							
科目番号	0171	科目区分	専門 / 必修				
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	履修単位: 3				
開設学科	商船学科	対象学年	4				
開設期	前期	週時間数	6				
教科書/教材	実験実習テキスト						
担当教員	八賀 正司, 見上 博, 水谷 淳之介, 経田 僚昭, 篠島 司郎, 山田 圭祐, 山本 桂一郎, 保前 友高, 佐々木 正, 野村 誠						
到達目標							
それぞれに行われる実験および実習の趣旨を理解しマスター出来る。 将来、船舶機関士としての資質を養い、それらを自ら向上させることが出来る。 学んだ事柄が自分のものになっていることをレポートすることが出来る。 総合点で60点以上の取得を到達目標とする。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
	実験および実習の趣旨を理解しマスター出来る。	実験および実習の趣旨を理解し説明出来る。	実験および実習の趣旨を理解し説明出来ない。				
	船舶機関士としての資質を養い、それらを自ら向上させることが出来る。	船舶機関士としての資質を養い、それらを向上させることが出来る。	船舶機関士としての資質を養い、それらを向上させることが出来ない。				
	学んだ事柄が自分のものになっていることを的確にレポートすることが出来る。	学んだ事柄が自分のものになっていることをレポートすることが出来る。	学んだ事柄が自分のものになっていることをレポートすることが出来ない。				
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	講義で学んだ理論を実験を通して実証し、実験と理論の関係づけを検討・考察し、関連技術の理解を深める。前半は約10名を1班として4班に分け、後半は各コース2班に分けて下記の項目の実験を行う。						
授業の進め方・方法	実験レポート、出席状況を総合して評価する。 未提出のレポートがあれば評価しない。						
注意点	船舶職員法養成施設必要履修科目 三級海技士(機関) 1. 機関に関する科目(その一) 一 出力装置 (1) 作動原理 (2) 運転および保守 二 プロペラ装置 (1) 作動原理 (2) 運転および保守 2. 機関に関する科目(その二) 一 補機 (1) 作動原理 (2) 運転および保守 二 電気工学、電子工学および電気設備 (1) 基礎理論 (2) 運転、試験および保守 3. 機関に関する科目(その三) 一 燃料および潤滑剤の特性 二 力学および流体力学 4. 執務一般 四 乗組員の管理組織および訓練						
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週					
		2週	船舶工学と機関シミュレータ実習	2班に分かれて左記の実習を行う。			
		3週	応用数学と機関シミュレータ実習	2班に分かれて左記の実習を行う。			
		4週	機関シミュレータ実習と流体力学実験	2班に分かれて左記の実習を行う。			
		5週	流体力学実験と若潮丸実習	2班に分かれて左記の実習を行う。			
		6週	流体力学実験と若潮丸実習	2班に分かれて左記の実習を行う。			
		7週	若潮丸実習と船舶工学	2班に分かれて左記の実習を行う。			
		8週	若潮丸実習と応用数学	2班に分かれて左記の実習を行う。			
	2ndQ	9週	電気実験と補機実験	2班に分かれて左記の実習を行う。			
		10週	電気実験と補機実験	2班に分かれて左記の実習を行う。			
		11週	補機実験と電気実験	2班に分かれて左記の実習を行う。			
		12週	補機実験と電気実験	2班に分かれて左記の実習を行う。			
		13週	数理演習(Ⅱ)と計測自動制御実験	2班に分かれて左記の実習を行う。			
		14週	数理演習(Ⅱ)と計測自動制御実験	2班に分かれて左記の実習を行う。			
		15週	計測自動制御実験と数理演習(Ⅱ)	2班に分かれて左記の実習を行う。			
		16週	レポートまとめ				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	レポート	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	30	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	35	0	0	15	0	0	50
分野横断的能力	35	0	0	15	0	0	50